

最初のお話をします。

毎日とても暑い日が続いています。そして、年々暑さが厳しくなってきたように感じます。これも、地球温暖化が影響しているのではないかと思います。

そこで、少しでも涼しく感じていただけますように、今日は、打ち水ということについてお話をしていきたいと思います。

お皿に水を入れて何日か放っておきます。そうしますと、いつの間にか水がなくなってしまうということがあります。でも、水はどこへ行ってしまったのでしょうか。

皆さんも御存じかと思いますが、水はとても小さな粒がたくさん集まってできています。この目に見えないくらい小さな粒のことを水の分子というふうに言います。お皿の中にある水は、長い時間をかけてしまえばばらになります。そして、ばらばらの分子になって空気の中に混ざります。空気の中に混ざることによりまして、水が蒸発していくわけであります。

水が蒸発するということにつきまして、短い時間でその状態が分かる例を示してみましよう。それは、やかんに水を入れて火にかけておくことで分かります。やかんを火にかけることによりまして、お皿に入れて放っておくよりもずっと早く水が蒸発することになります。これは、

火で温められて温度が上がりますと、水の分子が早くばらばらになるからであります。そして、普通よりも空気の中に混ざりやすくなるのであります。

では、夏の地面はどうでしょうか。太陽から熱をもらってかなり熱くなっています。ここに水をまいてみましょう。そうしますと、地面の熱によつて温められた水は、すぐにばらばらになりまして早く蒸発していきます。このとき、地面からの熱を奪うことになります。そうすると、熱を奪われた地面は、水をまく前より冷たくなります。そして、冷たくなった地面の上を吹く風についても、水をまく前よりも涼しくなるのであります。これが暑い日に水をまくと涼しくなる仕組みであります。

また、暑くなりますと人間は汗をかきます。汗が蒸発するときも、打ち水と同じ効果があります。そのため、汗をかくと涼しく感じるのであります。つまり、人間は、自分の肌に水をまいて冷やしているとも言えるのであります。

暑い日はまだ続きそうです。暑さ対策といえますと、エアコンや扇風機などが一番に思い浮かびます。しかし、経済的負担が少なく、地球環境に優しい暑さ対策として、打ち水ということにも注目してほしいと思うのであります。次のお話をします。

皆さんは、落ち込んだり疲れているときに、ちゃんと息抜きをしていますか。勉強や仕事などで大変だというときもあると思います。です、心と体を健康に役立てようという取組が行われているそうでもあります。今日は、このことについてお話をしたいと思います。

私は、最近、気になる記事を見つけました。それは、博物館についての話題でありました。こうした場所で展示物を鑑賞することによって、心と体の健康に役立てようという取組が行われているそうでもあります。今日は、このことについてお話をしたいと思います。

では、どうして博物館に行くことが健康につながるのでしょうか。記事の中には、様々な展示物を鑑賞することによりましてストレスを減らすことが期待できると書いてありました。確かに、興味深いものに接すると、わくわくしたり、元気が出るものであります。そして、こういった場所はとても静かであります。また、照明の明かりが控えめになっているところが多いのであります。このような空間でありましたら、展示物を鑑賞することに集中できるのであります。落ち着いた環境で何かに集中するというのは、心の安定につながると言われています。

ある大学におきましては、科学的な視点で研究が行われています。人が博物館に行くことでどのような変化が起きるかという実験も行われ

たのであります。そうすると、ストレスが減るという効果とともに、血圧が改善したり、脈が安定したという結果も得られたのであります。実は、海外でもこうした効果が認められています。ある国の病院におきましては、治療のために患者に博物館のチケットを渡しているというところもあるようであります。

私たちの国では、博物館によく行くという人はあまり多くないと言われています。ある調査では、平均で年に一回程度しか行かないという人が多いようであります。しかし、日本にはたくさんさんの博物館があります。その数は五千を超えるようであります。これらは様々なテーマに分かれていまして、あまりこういった場所に行かないという人でありまして、興味があるテーマのものが見つかるのではないかと思います。

私は、博物館は学ぶ場所なのだというイメージがありました。しかし、こうして心と体の健康という視点から注目をされているというのは、とても興味深いものであります。まずは、近くの博物館に行ってみようと思ったのであります。最後のお話は、経済に関するものであります。皆さんは、買物をしているときに、いろいろな商品の値段が上がったことを実感しませんか。実際、食料品をはじめとして、幅広い分野で値

上げの動きが広がっています。その原因の一つとして、世界の情勢が不安定になっていることが挙げられます。

お金がかかるということについては、子育てについても同じであります。最近では、これにテーマを絞った研究も行われています。どういうことかといいますと、子育てにかかる費用だけを取り出すのであります。次に、それがどれだけ値上がりをしたのかということ調べます。特に、子育てが始まる頃のデータを集中的に調べます。これによりまして、赤ちゃんを育てる期間に、どの程度の負担がかかっているのかということを知り出すのであります。

では、この研究にはどういった目的があるのでしょうか。以下、それについてお話をします。一般的に、子育てにたくさんのお金がかかるようになるのは、子供が大きくなってからだと言われています。確かに、そういう面はあります。ただ、子育てというものは、まずは赤ちゃんを育てることから始まります。そのために、多くの親は、既にこの段階からかなりのお金がかかるという現実と直面します。

例えば、紙おむつがあります。これは、赤ちゃんの体質によりましては、安いものを選べない場合があります。また、赤ちゃんが体調を崩しますと、おむつを取り替える回数が増えま

すので、さらにお金がかかるわけでもあります。それから、粉ミルクがあります。これも、赤ちゃんの体質が関係してきますので、安いものを選べない場合があります。これらは、赤ちゃんを育てるための必需品であります。そういったものに関する値上がりについてのデータなどを集めていくわけでありまして。

このようなデータを根拠とすれば、国の子育て政策についてより具体的な改善を求めることが可能になります。例に挙げましたとおり、紙おむつや粉ミルクに対して自治体による支援を訴えていくわけでありまして。

一人目の子供を育てている親が二人目の子供をつくるかどうかを検討するときには、一人目がまだ赤ちゃんである場合も多いのであります。このときに、経済面で二人目を諦めることもあります。その意味でも、赤ちゃんの期間だけを区切って、どのくらいお金がかかるのかについて調べることは大切なのであります。私は、この研究が生かされまして、少子化対策がさらに進むことを願っているのであります。(丁)